

仁済（インジェ）大学国際交流を終えて

医学部医学科 4年 谷口 純彬

今回参加させていただいた仁済（インジェ）大学の PBL は実際の臨床に沿った大変有意義なもので、深く印象に残った点が 2 点あった。1 つ目は、PBL の最初に、まず模擬患者さんが来られ、実際に医療面接、身体診察を行う点。2 つ目は、治療に関してまでしっかりディスカッションを行う点だ。どちらもいままで、PBL ではおこなったことがなく、内容もとても充実しており、学習意欲を高めてくれるものだった。Learning Goal では、自分がわからないこと、気になることを調べて来るので、学習のモチベーションが高まることはもちろん、とても記憶に残りやすかったように感じた。また、最終日には班でまとめた schema をもとに英語でプレゼンテーションをすることができ、大変貴重な経験をさせていただいたと思う。

寄宿舍に関しても、とてもきれいで広く、何も不自由に感じる事がなかった。そして、韓国で食べたものは、どの料理もとても美味しかった。

1 週間の国際留学で一番印象に残ったのが、仁済（インジェ）大学の学生の親切さだった。私のあまり上手ではない英語をきちんと聞いて、理解しようとしてくれ、ディスカッションでは発言する機会をたくさんいただいた。同じ班以外のどの学生も気さくに話しかけてくれ、さらに、昼も夜も毎回、食事に誘ってくれ、最後は宿舎まで送ってくれるなど、とても親切にさせていただいた。また、お互いの学生生活や趣味などはもちろん、韓国と日本の文化についても話をすることができた。このプログラムを通して、一生の友人を得ることができたように思う。

最後になりますが、石大賢 (Dae-Hyun Seog) 先生をはじめインジェ大学の職員の皆様、御支援頂いた九州大学医学部同窓会の皆様、康先生をはじめ九州大学の職員の皆様、大変貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。感謝申し上げます。